

## 東京湾再生官民連携フォーラム H31～H33 事業計画、平成 31 年度事業計画

### H31～H33 事業計画

#### ◆申請活動実施概要

#### I. 中長期計画 (H31～H33)

東京湾再生官民連携フォーラム（以下、「フォーラム」と言います。）は、「東京湾の再生のための行動計画（第二期）」（以下、「第二期計画」と言います）の内容を踏まえ、H25年から6年間の活動を積み上げてきました。官民の連携を深めより良い東京湾の形成を目指してきました。H31年からの3年間で、以下のあたらしい活動を策定し実施します。

#### 〈東京湾の日(仮称) / トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称) プランの策定〉

今後3年間の計画は、東京湾再生の社会意識を高めるためフォーラム活動のステージをさらにあげて、会員、構成員組織と共に、東京湾再生活動を統合する象徴として、集中的に取り組みを行う「東京湾の日(仮称)」、もしくは、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」のような期間設定を目指します。東京湾岸に住む市井の人たちからの賛同や参加、東京湾を意識する人たちの増加を目指します。

いままで取り組んできた〈連携・交流会事業〉をさらに推進し、組織の特長となる官と民の連携をさらに発展させ、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動を「流域に3,000万人が住む東京湾」を対象にして、推進していきます。PT（プロジェクトチーム）をひとつのコアメンバーとして、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」の具体的な定義、具体的な活動集約の方法や推進協力の方法などを検討する準備室を設けます。

未来への社会責任〈Social responsibility for the future〉として「東京湾の日(仮称)」もしくは「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動を市民、企業、行政の諸活動の象徴的な目標として設定し、フォーラムの既存の活動に加えて、市民が意識して参加する身近な活動を促し広げます。フォーラムの活動集約としては、従来から東京湾大感謝祭の場がありますが、市井の生活者の意図的な小さな実践活動を参加型の取り組みとして繋げていく仕組みとして新たに設定するものです。（一財）セブン-イレブン記念財団のご支援に対して、より一層のシナジー効果を図りながら進めていきます。

東京湾は様々な視点があり、首都圏であること、豊かな湾がひろがり多様な生きものが生息しながら産業経済機能としての経済活動や生活ごみの処理などが行われ、さらに2020年には、「東京オリ・パラ2020大会」会場ともなります。「東京湾の再生のための行動計画（第二期）」も中間報告の検討が行われ、これを踏まえ第三期の計画が進みます。フォーラム活動も政策提案を継続するとともに、裾野を広げた市民参加を促すことで、東京湾の再生を進展させ第三期計画の策定に寄与します。

## ≪目標実現のためのポイント≫

1. フォーラムの官民連携モデルの特長を発揮して、諸活動を統合・集約する象徴としてあらたな取り組み「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動を展開します。
2. フォーラムの役割として重要な官への政策提案は引き続き推進していきます。官への政策提案と併せて、フォーラム内での相互の刺激や議論の重層化にも繋げ、面的広がりを創りだす活動に繋がっていきます。
3. PT 連携の実現および外部との連携により東京湾・うみへの関心を寄せる生活者を増やします。「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動の協力パートナーとなるコアメンバー、コア層への「東京湾メンバーズカード」、または「東京湾おもてなし特使」などによる啓発活動の実施を行います。
4. 世界遺産に関する自然資源の環境保護や江戸前の意識の向上に結び付ける啓発活動を実施します。
5. 東京湾への関心を呼び込む情報提供の充実と期を同じくして東京オリ・パラ 2020 大会に伴う関心を東京湾に呼び込む活動を行います。
6. 今まで積み上げてきた実績をもとに、さらに多様な角度からの東京湾を取り上げ、情報発信 PR の実施を行っていきます。

## <実施概要>

### 1. <「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」> 活動の醸成

首都圏、東京湾岸に住む約 3,000 万人の生活者が、東京湾の多様性に振り向き、東京湾の恵みを暮らしの中で意識できる日となるような活動を推進します。そして世界遺産登録に向けての価値意識を高めていきます。

#### ◇活動の枠組み

- ・「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」の制定機運の醸成
- ・江戸から東京にかけて、大都市を支えてきた東京湾の歴史を理解し、東京湾の多様性 自然資源、機能、海の祭りへの参加、文化資源、複合資源への気づきを促し、認識・啓発を進める活動
- ・首都圏 3,000 万人の生活を支えている地産・地消の推進を図り、東京湾の恵みの理解促進活動と生活からの負荷の認識促進活動
- ・台所の流し口が海につながっている事や道端のゴミが海に流れ着く事を意識しながら、ペットボトル回収やプラスチック製品投棄について考えることで、海洋ごみへの生活者意識喚起活動およびライフスタイルの在り方についての改善活動
- ・東京オリ・パラ 2020 大会を視野に入れ世界的にも特異な首都圏に隣接した美しい海を体験する関連活動（観光、江戸前魚食文化など）への取り組み活動  
(、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」：活動においては、協力企業・支援組織への感謝表明と社会認識の促進を図ります。)

## ◇準備室の設置

推進のためにフォーラム事務局内に「東京湾生活者ネットワーク準備室」を置き、東京湾への幅広い取り組みの実施と戦略づくりを視野に入れていきます。

準備室においては、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動の範囲、訴求対象、内容、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」制定活動の幅広い議論を想定しています。メンバーは、フォーラム、PTメンバー、再生会議関係者に企業などの参加などを予定しています。

	東京湾の日 活動
H31年	準備室の発足
	連携事業の推進 (PT連携、講演会) (想定・トライアル・検証などのPDCA)
	組織団体、企業などへパートナー協力の働きかけ
	ツール・取組キャッチ・テーマなどの開発・普及活動
	東京湾の日活動メニューの検討・計画
H32年	東京湾の日活動 民間への醸成浸透 (生活者・企業へ)
	東京湾の日活動メニューや連携事業の推進
H33年	東京湾の日活動の結集イベント、PR活動の計画の実施
	さらなる連携事業の推進

## 2. &lt;あらたな PT 連携事業の創出&gt;

## ・官民連携フォーラムの柱の一つが PT

フォーラムの設立時から官と民とが協働して調査・研究を行い、課題を整理し解決策を探り、政策提案に結びつけてきました。この活動はフォーラムの柱となっています。引き続き PT 活動を活発に行います。

## ・プロジェクトチーム連携を図る

フォーラム既存の各 PT (プロジェクトチーム 9つのテーマ) 独自の取り組みは大きな成果を挙げてきました。さらに、次の3年間では俯瞰的な視点から PT 間の連携を促し、その活動を<PT 未来クロス活動> 連携事業として推進していきます。そして、海への活動の裾野を広げ、興味関心のある自発的活動力が高い子育てファミリーを中心に東京湾への関心を引くことに注力します。成果は「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動メニューなどとして普及を図ります

## 3. フォーラム法人化検討の継続

## ・組織機能強化と社会的信用度を高める

フォーラム活動は、企業、個人の支援に支えられています。官民がフォーラムの組織で議論を

行うことにより相互の信頼性が育まれてきました。この成果を踏まえ、フォーラムの組織の良い点をさらに伸ばし、社会的信用度を高めることに注力します。組織の在り方の多様性を追求し、ハイブリッド組織といった視点も検討していきます。また、組織機能強化をはかるアライアンスパートナーを作り出すために、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」に沿った企業・諸団体・業界への関係スキームの強化を図ります。

今後の活動の中に、社会的信頼度・影響力を高めるために次の視点をもって引き続き取り組んでいきます。

- ・資金源の確保、開発・維持強化(会費、事業収益など)
- ・組織営業の強化・組織形態の整備・支援企業の名簿管理
- ・関係スキームの強化(アライアンスの検討・共通のロゴマークの普及・「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」における共通テーマでの各社イベント開催実行など)

#### 4. 政策提案の着実な活動と面的な広がりへ

##### 1) 政策提案実績

第二期計画に寄与する政策提案を継続的に東京湾再生推進会議に実施します。

- ・平成 26 年 11 月 17 日(月)「新たな指標に関する提案」と「指標についての解説書」を提案
- ・平成 28 年 2 月 18 日(木)マコガレイの産卵場を再生するため等の「生き物生息場づくりに関する提案書」を提出
- ・平成 29 年 3 月 30 日(木)「東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次政策提案」を提案
- ・平成 30 年 11 月 28 日(水)「東京湾奥での海水浴復活のための第一次政策提案」を提案

これらの提案書は、指標 PT に代表されるようにフォローアップ活動を実施し、相互協力し継続的な推進や社会定着を図ります。

##### 2) 平成 31 年～33 年の政策提案

東京湾の施設、海上公園、海の環境学習や自然資源などを扱う関連施設について題材にする「東京湾の窓 PT」による提案、「東京湾パブリック・アクセス方策に関する第二次政策提案」、「生き物生息場づくりに関する提案」、「江戸前ブランドの育成提案」などが予定されます。

##### 3) PT 長会議による政策提案の質的向上と PT 相互連携

毎年実施している「PT 長会議」(年 1 回)を継続して行い、政策提案の方法と議論の質の向上を図っていきます。PT が持つ課題を相互に共有し、解決に向けて検討を行っていきます。また PT 活動での共通の資金的な課題にも取り組み、行政と連携しながら支援していきます。

政策提案が積み重なることで、東京湾再生に向けた大きな哲学が成熟してゆくこととなります。全体の方向性について意識づけられてくることは、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動の基盤としても重要になってくる可能性があります。

## 5. 環境循環を意識した交流会の実施

海域から陸域までを捉えて繋がりを意識した交流会を実施いたします。また、業界や組織の異なる同士（NPO と企業など）の交流を図ります。

今までの交流実績（参加組織団体総数：企業 47、NPO 等 111）を踏まえて、3 年間での交流団体目標 100 団体を目標にします。この活動によりさらに交流知見を深め、広げ、森から海への環境活動、産業経済活動（CSR 活動）、ライフスタイルの在り方などに関する活動の充実を図ります。

## 6. 情報の（提供・仲介）受発信・交流（広報）

- ・フォーラム活動の PR & 社会への活動メッセージの訴求新しく計画する「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動と共に、これを象徴するメッセージとなるキャッチを作り、親しみやすさとフォーラム活動をわかりやすく伝えるメッセージの発信活動を行います。
- ・ウェブやメール配信による継続的な PR 活動  
デジタル情報のコンテンツを充実させ、フォーラム活動の PR を図ります。
- ・「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」PR ツールの開発と「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」メニューの充実  
新たな「東京湾メンバーズカード」制度やウェブサイト、東京湾環境一斉調査などを活用しながら生活者、市民、都民からの声を取り上げ、東京湾の大切さを PR していきます。また、話題のあるコンテンツの充実を図り、HP で情報提供していきます。

平成 25 年度～平成 30 年度 連携実績

年度 項目	第一期					第二期					合計
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	第一期計	平成28年度	平成29年度	平成30年度	第二期計			
東京湾再生のためのプロジェクトチーム (PT) 数	5	7	7	7	9	9	9	9	9		
東京湾大感謝祭 来場者数 (人)	1,500	82,000	88,000	171,500	98,000	25,000	105,000	228,000	399,500		
政策提案		新たな指標	生き物生息場つくり	2	パブリックアクセス		海水浴復活 方策	2	4		
CSR-NPO未来交流会 (参加団体数)			27	企業 13 NPO等 14	27 16	33 28	27	企業 34 NPO等 97	158 47		
(参加者数)			36	36	31 21	47 46	38	183	219		
企業・行政等施設見学会 & 観察会		22	24	22	28	22	48	98	98		
		東京都葛西海浜公園 東なぎさ観察会	東京湾海の森PT シイタケ&森々崎水再生PT		横浜高島水際緑公園 他横浜港周辺	新日鐵住金(株) RECITA(高津)	東京都野島公園 (人工干潟)、東京港/カ-				
		東京港	東京港		横浜港	千葉県富津市	東京港				

## 平成 31 年度事業計画

### II. 平成 31 年度の活動内容

平成 31 年度から新たな展開が始まります。その第一年度である平成 31 年度は以下の活動を行います。

#### ≪活動内容≫

##### 1. 情報（提供・仲介）の受発信・交流（広報）

###### 1) 「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動

「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動と連動した形で「東京湾メンバーズカード」による PR 活動に取り組みます。今まで行ってきた情報提供量の拡大と質的充実をより一層図ります。

###### 2) ウェブやメール配信による継続的な PR 活動

HP、Facebook など WEB サイトをさらに充実させ、会員を繋ぐ「東京湾-News Letter」（メール配信目標数：50 通）や東京湾情報カレンダーの活用を図ります。また改めて、既存四媒体、さらには環境、水処理、港湾関連、環境自然などの分野の業界紙誌のフォーラム活動の理解促進を図ります。HP には、フォーラム活動の事業経過を合わせてプロジェクトチームの情報公開促進し、随時公開していきます。

###### 3) 支援組織について

フォーラムの具体的な外部活動や情報発信、さらには、新しく活動する「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動などにフォーラムロゴと共に支援を頂いている一般財団法人セブン-イレブン記念財団等支援組織のロゴ併記などを心掛けます。

「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動、東京湾一斉調査、ハゼやアサリの現地調査、生き物などの観察会や環境学習、などでの配布物などを対象として併記/表記を計画します。

###### 4) 東京湾再生アンバサダーの活動

東京湾再生アンバサダー（平成 30・31 年度委嘱）

1. 榊 太一 氏（日本テレビアナウンサー）
2. ガリガリ君（赤城乳業株式会社 キャラクター）

平成 28 年 3 月に東京湾再生アンバサダーが誕生し、「東京湾大感謝祭」において東京湾の環境再生について、当日イベント会場での活動や新聞、雑誌、TV 等を通じて、折につき東京湾にふれていただきました。引き続き PR をして頂きます。

また、交流会などを活用して新しい企画の「東京湾の環境についての対談など」の実施を計画します。

#### 5) 東京湾スタンプラリーの PR 支援

現在、9つの PT が活動を行っています。この中でも、特徴ある東京湾の施設連携・ネットワーク化を目指して活動している「東京湾の窓 PT」の活動は市民と密接な関係にあります。今年で3回目となる施設をめぐるスタンプラリーを支援して、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ・ワン・アンガージュマン(仮称)」活動を広く PR します。

#### 6) 会員の募集活動

HPによる会員入会案内を実施しています。随時フォーラム会員の団体・個人の登録受付を行い、会員管理を実施していきます。都度ごとに会員へのメール配信を実施していきます。現在会員は個人298名、団体会員118組織になり、会員は継続して募集し、目標増として、引き続き個人500名の加入、150組織の会員加入を目指します。また、PT会員などへの参加も必要時に募集対応していきます。

#### 7) イベント・展示会などへの PR

フォーラム活動の幅広い認知を図るため各種シンポジウム、セミナー、ポスター展などへの出展や展示会への参加を実施します。

#### 8) チラシ:「みんなの東京湾みんなで再生」の活用

CSR-NPO未来交流会、経団連自然保護協議会主催の展示、東京湾大感謝祭など、初めて接する方々に対して、東京湾官民連携フォーラム活動の説明用に活用していきます。

#### 9) 東京湾大感謝祭

横浜赤レンガ倉庫におい計画するイベント「東京湾大感謝祭」は、「フォーラム活動の発表の場」として継続して活用していきます。各PTからの成果紹介内容を短時間の紹介ビデオ番組として取りまとめ関連施設での公開・常設展示を検討します。

## 2.個別政策への取り組み(交流・連携活動)

### ●交流・連携活動

#### 1) PT@2019 未来クロス活動(P T活動報告)の実施

各PTメンバーなどの参加による多様な活動連携具体的にする場、各PTのモチベーションを高めるために計画実施します。

#### 2) 連携事業を具体化するための検討会議を行い、そこで新たに生まれてきた一連の活動を具現化します。例えば、PT活動の東京湾の施設を利用した紹介や東京湾岸マップなどによる活動の紹介、PT個別のパンフレット類の作成など、さらには、具体の活動としての海ゴミ削減への啓発活動や具体的な海ゴミ清掃活動などがあげられます。表出機会を捉えてHPを始め、デジタル媒体などの活用を行っていきます。

#### 3) 東京湾をより知り、良くするためのガイド役となる特使の任命や表彰制度の検討を図ります。



## 〈ツールの開発・実施〉

## ・「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動

東京湾の実態への興味関心を子育てファミリーの家庭の中にも浸透させていく活動を行います。そのために、参加活動メニューの整備、例えば、家庭向けの季節のお魚カレンダーの作成や東京環境マップなどの配布により東京湾を身近で大切な自然資源などとして意識する活動を行います。連携企画として教育委員会や近隣の小学校のフィールドワークショップへの参加啓発、体験乗船会(船上学習、観察会)などの体験・経験するメニューの整備を行い啓発活動につなげます。

## ・東京湾メンバーズカードの創設

カードをきっかけとして、海の日の小さな活動に始まり、東京湾環境一斉調査への参加、スタンプリリーなどのへの協力などの行動へと発展してもらうことをねらい、東京湾メンバーズカードの制度を創設します。コアメンバーを中心としてスタートし、実際の参加者を増やし、日常的に考えてもらう方々を増やすための活動をおこなっていきます。

## 4) CSR－NPOの交流会の実施

平成 31 年度も引き続き交流会を実施するとともに、NPO と企業間の交流実績を高めるとともに、業界間の垣根を越えた交流を行い、参加組織団体への情報フォローや具体的な相談など受け入れ活動を推進していきます。CSR テーマは幅広く、持続可能な開発目標 (SDGs) も視野に入れて取り組む組織も多くなり、今後活発な議論を作り出していきます。

「CSR-NPO 未来交流会」、「施設見学交流会」として引き続き一般財団法人 セブン-イレブン記念財団、経団連自然協議会さまの支援を受け活発な交流活動を実現していきます。

参加組織・団体、企業の相互の事業を紹介し合うことで、それぞれの組織が抱えている課題解決の意図口となる場を提供します。NPO、任意団体相互の異業種交流、企業とNPO・任意組織団体との交流や山から海に至る循環を意識した交流を図ります。交流会で得た情報は、フォロー実施などで共有を図っていきます。

## ・平成 31 年度は 7 月実施予定

## ■平成 31 年度 CSR-NPO 未来交流会 (予定)

- (1)開催日時(案)：平成 31 年 7 月 18 日(木) 13:00~16:30
- (2)開催場所：東京都千代田区麴町 5-1 弘済会館 (予定)
- (3)参加目標：フォーラム会員 + 非会員：企業、NPO等 40 団体
- (4)参加費：500 円/人 (会場費、資料代、お茶代)
- (5)交流会プログラム予定

- ・講演テーマ：「海ごみと私たちのライフスタイル その減量作戦活動」(仮称)
- ・事例研究：「組織連携による社会システムへの取組活動」(企業、NPO)
- ・相互交流情報交換：グループディスカッションなどによる参加企業、NPO等交流

より多くの組織が参加できるように、今までの経験と反省などを含めて交流会開催の工夫を行います。

<要点>

- ・企業組織の参加増の検討
- ・交流会でのマッチング事例づくりの実施(交流会のフォロー作業の実施)
- ・交流会でのマッチング方法の検討(グループセッション、参加組織のポスターセッション枠の提供など、方法の検討)
- ・名刺交換時間の設定など

■平成 31 年度の目標

- ・平成 31 年度予定：7 月 18 日開催 参加：40 団体 人数：60 名の目標
- ・上場企業へのCSR-NPO未来交流会の役割認知PR
- ・NPOの活動を広く知らせるためにより細分化したテーマの追求。参加者の専門性を引き出し、最新事例などのノウハウ、知見の情報提供の場を提供する。
- ・フォーラム活動を市民・生活者へのPR活動の促進強化活動

5) 施設見学会の実施

引き続き会員同士の知見を高めるためにも環境改善や環境再生に寄与する施設を見学し、東京湾再生のためのノウハウの共有、改善方策検討の参考として頂くことを目的に施設見学会を実施します。沿岸の公共施設の管理や公共プロジェクト事業へのNPO等が協働参加している事例を実際に見聞し、東京湾の環境再生への市民参加事例研究の場を会員へ提供します。

平成 31 年度は 9 月実施予定

見学対象施設候補(案)

- ①東京港中央防波堤外側埋立処分場・廃棄物処理施設+スーパーエコタウン  
<https://www.tokyokankyo.jp/kengaku/chubo.html>
- ②「東京湾に残された遺構 第二海堡」  
海上に人工的に造成した島に砲台を配置した海堡は、要塞の一つです。  
日本では明治、大正に建設された複数の海堡が主に東京湾に存在しています。
- ③国立研究開発法人 港湾空港技術研究所(神奈川県横須賀市久里浜)  
<https://www.pari.go.jp/>  
大規模波動地盤総合水路、干潟実験施設、水中作業環境再現水槽他
- ④その他、水関連施設、浄化実証実験施設、水産業関係施設、防災関係施設など

対象・参加者はフォーラム会員を対象に募集し、参加者数：30名予定  
参加費・1,000円程度(資料、交通費など)

### ●他団体との連携

引き続き国連生物多様性 10 年日本委員会、経団連自然保護協議会などへの参加協力をはじめ様々な団体との連携を続けます。更に新たに日本財団「海と日本 PROJECT」推進パートナー会員への参加など各組織団体と連携したフォーラム活動を推進し、東京湾の水環境の改善、生き物保全といった地球環境全体の取り組みを図っていきます。

あらたに始まった（環境省）「プラスチック・スマート」キャンペーンの参加協力を実施します。フォーラム会員への海洋プラスチック問題の解決に向けた協力連携活動を行います。

こうした連携により「東京湾再生推進会議」や「東京湾の再生のための行動計画（第Ⅱ期）」を応援して行きます。

### ●後援・協賛の受付

平成 31 年度も同様にフォーラムの「後援・協賛」を実施していきます。

### ●調査研究（PT サポート）

P T 活動を支援し、主に現場や実証作業、ワーキングなど具体的活動の支援充実を図っていきます。例えば、

- ①「指標活用 PT」は、海ごみなどの項目をはじめ東京湾の指標となるデータのアンケート実施を行っている。今年度もフォーラム HP 利用してアンケートへのサポート協力を実施します。
- ②東京湾にある施設のネットワーク化支援・東京湾の窓 PT のスタンプラリーを応援するネットワーク作りの支援を行います。また HP での紹介などを実施します。・東京湾に関連する施設 海上公園、博物館、自然、資料館、税関資料館、図書館など多様な目的の施設の中で、環境保全、自然の恵みを題材として取り上げ、NPO との交流の後押しを実施します。

特徴ある P T 活動を推進できるようフォーラム事務局では、サポートを行っていきます。

### ●相談窓口（コンサルティング）

- ①連携・調整の活動で具体化された相談受付をウェブや会員とコミュニケーションし、実施していきます。交流会で新しい組織団体などからの相談を実施していきます。
- ②P T 活動における多様な主体との相談、調整等を行います。

### ●啓発・人材育成

各 P T の啓発・人事育成サポートの実施に取り組みます。

## 3. 統一テーマでの活動

- ・「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動

あらたにフォーラム活動を象徴する「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」を起点として、年間サイクルの創出を意識し、季節に沿った活動を社会に対して印象付ける計画を行います。さらに「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活

動にあたり、その活動が評価（視覚化）できる仕組みの構築の検討を図っていきます。今まで横浜赤レンガで開催してきた東京湾大感謝祭は、引き続き発表の場として今後も活用します。

さらに、フォーラムのPT活動の発表の場を具体的に検討して、あらたな`場、として、東京湾関連施設（海上公園、自然観察センター、博物館など）で、一定の期間、展示などを行い、活動の紹介を実施します。

この計画を推進のためにフォーラム事務局内に「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」準備室」を置き、東京湾への幅広い取り組みの実施を視野に入れていきます。準備室においては、「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」活動の範囲、訴求対象、内容、湾の日制定活動の幅広い議論を想定しています。PTメンバー、再生会議メンバーなどの関係者に東京湾に関心のある企業などの参加を呼びかけます。

#### ・東京湾クリーンナップ大作戦 2019（仮称）の計画・実施

「東京湾の日(仮称)」、「トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」を統一テーマに、多くの都民、市民、生活者が参加できる`東京湾クリーンナップ大作戦（仮称）、を実施します。実施に当たり東京湾にそそぐ河川など水辺を含んだ範囲を検討し、（一財）セブン-イレブン記念財団の協力をお願いし運営していきます。実施日など、詳細は別途検討予定。

#### ・東京湾大感謝祭 2019 の開催について

平成 31 年度も引き続き横浜、大栈橋・赤レンガにて、10 月 17 日（木）東京湾シンポジウム（大さん橋会場）、19 日（土）～20 日（日）スペシャルイベント（大さん橋会場）、10 月 26 日（土）、27 日（日）（横浜赤レンガ倉庫・広場メイン会場他）、に東京湾大感謝祭 2019 の開催を予定しています。横浜で 6 年目を迎え、横浜市の共催参画が実現し、地元に着実に定着してきています。

## 4.政策提案

上記 1. から 3. の活動により得られた東京湾再生への成果、課題等を取りまとめ、東京湾再生推進会議へ、具体的な取組や改善策等の提案を目指します。平成 31 年度は、質・量ともに向上した政策提案ができるようにPT会合や企画運営委員会での審議の深化を心がけます。

なお、検討段階に入るPTは、「生き物生息場づくりPT」、「東京湾パブリック・アクセス方策検討PT」、「東京湾の窓PT」は、政策提案の議論が進行しています。質の向上を目指したサポートを実施していきます。

## 5.事業化、フォーラム法人化について

事業の推進に当たり、フォーラムの活動を支援していただく組織等へのスポンサードの獲得を目指します。特別有料会員などにより企業からの賛同を得やすい工夫を行い、事業推進を図ります。また東京湾再生のための寄附等の協力呼びかけをさらに実施していきます。

事業化と共に、法人化について今後も継続して検討を行っていきます。様々な観点から法人化のメリット、デメリットを踏まえ、一定の方向性を出すことを目標に進めていきます。

## 6. 平成31年度 月別スケジュール

申請活動実施スケジュール	2019年 4月	CSR-NPO未来交流会2019 準備 テーマ・講演者等の検討 「東京湾の日活動」準備(PT連携、準備室の設置、メンバーズカードなどのツール準備) 東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援(東京湾ぐるっとスタンプラリーの準備) 東京湾大感謝祭参加企業募集/(イベント企画調整 月/1回実行委員会開催) 環境省・プラスチック・スマートキャンペーンの協力、団体登録 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 5月	H31 第1回企画運営委員会開催 「東京湾の日活動」の戦略検討 CSR-NPO交流会2019 PR活動・参加団体募集 PT事業計画に基づくPT活動支援 東京湾ぐるっとスタンプラリーの開始 東京湾メンバーズカード配布の具体化作業 海ごみ清掃活動、海ごみ事例の情報収集 みんなの東京湾みんなで再生 PT紹介展示(谷津干潟自然観察センター) 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 6月	CSR-NPO交流会2019 PR活動・参加団体情報取りまとめ みんなの東京湾みんなで再生 PT紹介ミニシンポ準備(谷津干潟自然観察センター) 「東京湾の日活動」の検討(東京湾体験学習など) 東京湾一斉調査への協力準備(「東京湾の日活動」PR) 各PTの政策提案の進捗確認 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 7月	東京湾再生官民連携フォーラム CSR-NPO未来交流会2019 開催 東京湾アンバサダー対談等の準備 H31 第2回企画運営委員会開催 東京湾一斉調査への協力準備(「東京湾の日活動」PR) PT紹介ミニシンポ開催 政策提案の準備(企画運営委員会への審議事項) 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 8月	CSR-NPO未来交流会2019フォローアップ モニタリングPT支援(調査協力:東京湾一斉調査PR)の実施 東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援 PT長会議開催(政策提案について) 政策提案意見収集 指標活用PT データ収集支援 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 9月	東京湾ぐるっとスタンプラリーのとりまとめ 東京湾再生官民連携フォーラム・総会準備 東京湾再生官民連携フォーラムマッチング情報募集・公開 H31 第3回企画運営委員会開催 企業・行政等施設見学会 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 10月	東京湾再生官民連携フォーラム 第7回通常総会 東京湾シンポジウム開催(東京湾再生官民連携フォーラム後援) 東京湾大感謝祭2019開催/SDGs東京湾フォーラム宣言の実施(仮称) 東京湾ぐるっとスタンプラリーの結果報告 東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 11月	東京湾大感謝祭報告 東京湾アンバサダー対談の実施(「東京湾の日活動」に向けて) PT長会議準備 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2019年 12月	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援 PT連携の確認・検証 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)

申請活動実施スケジュール	2020年 1月	年度事業報告書の作成
		東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
		次年度計画の作成・検討
		東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2020年 2月	次年度PT事業の準備
		PT@2019未来クロス活動 会議の開催
		東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
		東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
	2020年 3月	H31 第4回企画運営委員会開催
		東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
		東京湾再生官民連携フォーラムマッチング情報募集・公開
		東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)

## 7. 平成31年度予算

### 平成31年度予算

2019/3/28

#### 【収入の部】

(単位:円)

科 目	H31年度予算	備 考
1. 寄付金収入	0	
2. 助成金収入	4,000,000	セブン-イレブン記念財団他
3. 雑収入	0	
普通利息	0	
その他	0	
(A) 単年度収入合計	4,000,000	
(B) 前年度繰越金		
(C) 収入合計 = (A)+(B)	4,000,000	

#### 【支出の部】

(単位:円)

科 目	H31年度予算	備 考
1. 事務局経費	3,145,000	
1) 事務局人件費	2,751,020	事務局員1人
2) 事務局運営費	393,980	HP管理・更新、通信費
2. フォーラム事業費	855,000	企画運営委員会会場費借り上げ費、フォーラム交流会会場借り上げ費、広報宣伝費等
(D) 単年度支出計	4,000,000	
(E) 単年度収支差額=(A)-(D)		
(F) 次年度繰越金=(C)-(D)		

 <p>東京湾再生官民連携フォーラム</p>	 <p>セブン-イレブン記念財団</p>
 <p>この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています</p>	<p>東京湾の魅力をみなさまに</p> <p><b>東京湾再生アンバサダー</b></p> <p>榎 太一 アナウンサー</p> <p>ガリガリ君 赤城乳業(株)</p>